

超人気FP!

— ABC ネットニュース —

# 深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2015年6月5日

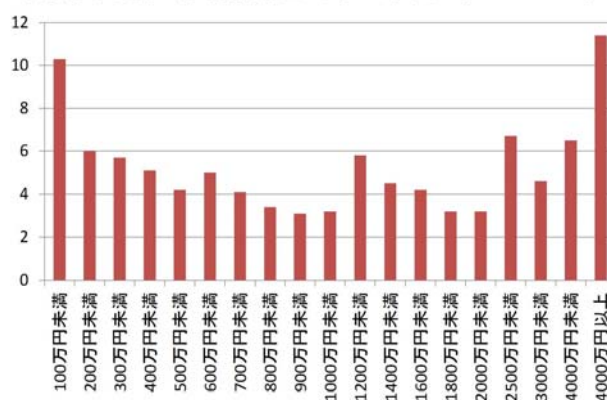
## 今月のトピックス 「資産効果により貯蓄現在高は過去最高を更新」

株価の上昇などを背景に個人の保有金融資産額も右肩上がりで増えています。総務省が公表した 2014 年の家計調査「貯蓄・負債編」2人以上世帯によれば、1世帯が保有する 2014 年 1 年平均の 1 世帯当たり貯蓄現在高（平均値）は、1798 万円で、2013 年と比較して 59 万円、3.4 ポイントの増加となり、2 年連続過去最高を更新。直接比較可能な 2002 年以降では最高額となりました。貯蓄保有世帯全体を二分する中央値は、1052 万円と前年比 2 万円の増加となっています。貯蓄現在高、中央値共に前年と比較して増加となったのですが、年間収入は 614 万円で、前年と比較して 2 万円、0.3 ポイントの減少となりました。年収が減少したことから、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は 292.8%となり、前年と比較して 10.5 ポイントと大幅に上昇しています。このうち勤労者世帯（2人以上世帯に占める割合 51.5%）についてみると、貯蓄現在高の平均値は 1290 万円で、2013 年と比較して 46 万円、3.7 ポイントの増加となりました。中央値は 741 万円、前年比で 6 万円の増加となっています。また、年間収入は 702 万円で、前年と比較して 6 万円、0.8 ポイントの減少、貯蓄年収比は 183.8%で、前年と比較して 8.1 ポイントの上昇となりました。年間収入が減少している半面、現在貯蓄高が増えているということは、2014 年は株価上昇などの資産効果が高かったことをうかがわせます。2人以上世帯の貯蓄現在高階級別の世帯分布（図）をみると、平均値である 1798 万円を下回る世帯が 67.6%と前年より 0.4 ポイント減少していますが、全体の約 3 分の 2 を占めていることから、世帯分布は貯蓄現在高の低い階級に偏っています。貯蓄現在高が最も少ない 100 万円未満の階級が、2人以上世帯に占める割合は 10.3%となっており、前年と比較して 0.3 ポイントの上昇となりました。このうち勤労者世帯についてみると、100 万円未満の階級が勤労者世帯に占める割合は 12.4%で、前年と比較して 0.4 ポイントの上昇となっています。2014 年は持つ者と持たざる者の差、いわゆる資産格差がより開いた 1 年となったと言えるでしょう。

また、2人以上世帯について貯蓄の種類別に 1 世帯あたり貯蓄現在高をみると、定期性預貯金が 758 万円（貯蓄現在高に占める割合 42.2%）と最も多く、次いで通貨性預貯金が 380 万円（同 21.1%）、生命保険などが 320 万円（同 20.6%）、有価証券が 251 万円（同 14.0%）と続いています。このうち勤労者世帯についてみると、定期性預貯金が 469 万円（同 36.4%）と最も多い点は変わりませんが、次いで生命保険など 320 万円（同 24.8%）、通貨性預貯金が 308 万円（同 23.9%）、有価証券が 136 万円（同 10.5%）となっています。

種類別の貯蓄現在高に驚きはありませんが、増加率をみると意外な面が見えてきます。2人以上世帯では、最も増えたのが株式などを含む有価証券と思われるかもしれませんが、最も増えたのは普通預金などの通貨性預貯金で 6.7 ポイントの増加。次いで定期性預貯金の 4.7 ポイント増加、3 番目が有価証券の 4.6 ポイント増加となっています。このうち勤労者世帯では、最も増えたのが有価証券の 17.2 ポイント増、次が通貨性預貯金の 4.4 ポイント増加、定期性預貯金の 4.2 ポイント増加となっています。普通預金を含む通貨性預貯金が低金利にもかかわらず大幅に増加しているのは、昨年、個人投資家は株式を大きく売り越したことから、売却代金などが普通預金に滞留していることにその背景があるのかもしれませんが、あるいは、株式を保有している個人投資家は高齢者が多いことから、投資歴が長いベテラン投資家ほど株価の上昇に懐疑的になっていると考えられます。いずれにしても 2015 年も株高円安傾向が続いていることから、資産格差はさらに広がっていくと予想されます。投資の啓蒙を行っている筆者には忸怩たる思いです。

貯蓄現在高階級別世帯分布2014年



※出所:総務省「家計調査報告(貯蓄・負債編)」,2014年2人以上の世帯、単位=%